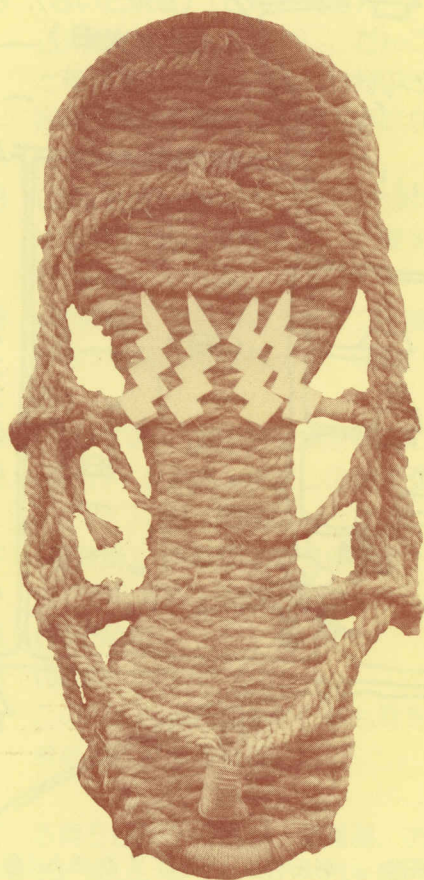


横浜・戸塚

下倉田南谷戸

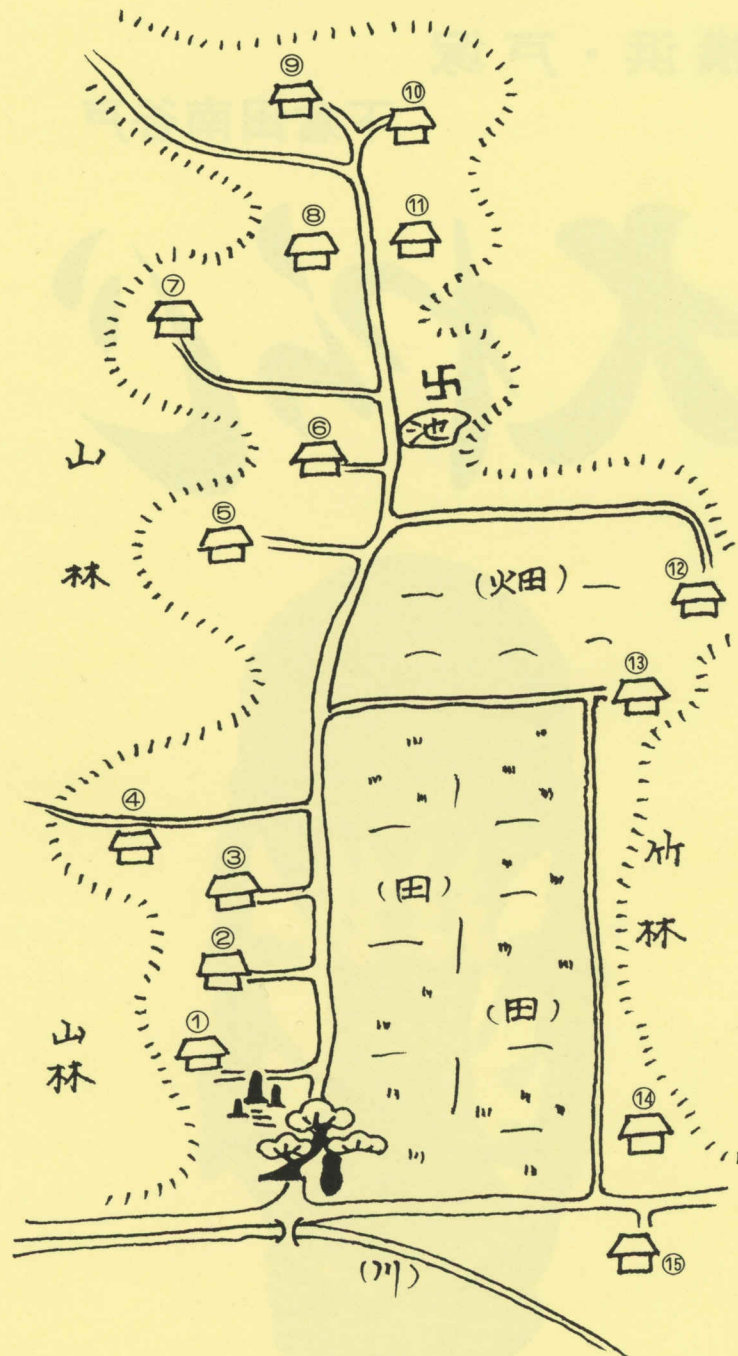
大わらじ



南谷戸 和楽路会

——鎌倉郡豊田村字下倉田南谷戸——

当時の戸数と屋号



- | | |
|-----------------------|--------------------|
| ① し も (田中 彰氏宅) | ⑧ げえむさん (金子 市男氏宅) |
| ② とくさん (吉原 清治氏宅) | ⑨ またえむさん (米山 昭男氏宅) |
| ③ さえむさん (金子 勇氏宅) | ⑩ わたや・やと (金子 馨氏宅) |
| ④ しんや しき 新屋敷 (金子 正氏宅) | ⑪ ごんべさん (金子 利夫氏宅) |
| ⑤ あさまえしき (吉原 安治氏宅) | ⑫ こうや (吉原 繁太郎氏宅) |
| ⑥ わすけさん (鈴金 三郎氏宅) | ⑬ おかい (金子 好造氏宅) |
| ⑦ やねや (金子 留蔵氏宅) | ⑭ しいだ (金子 好子氏宅) |
| | ⑮ いちえむさん (金子 稔氏宅) |

——南谷戸大わらじ・道祖神——

道祖神は、道路の悪魔を追いはらい、道行く人を守護する神「魔除けの神」として、道路の辻に石碑を建てて人々が信仰したと記されています。特に関東、中部地方に多く現存していると云われています。

この道祖神も、昔からこの鎌倉街道の道端にまつられ、近隣の人々から信仰をあつめ、鎌倉へ通ずる主要道路であつた為、旅人達の往来に、道中安全祈願の場としても知られていました。

何時しか、誰するもなく、わらじを小枝に奉納し、家内安全、旅の無事息災を祈願する風習となつたのです。東海道や大山街道と結ぶ道路のため、お坊さんや、参詣者の往来も多く、奉納されたわらじを履きかえて、祈禱して行く修業僧の姿も見られたと伝えられています。そして現在のような大わらじが奉納される様になつたのは、大正初期のことです。

土地の青年数名が農業に従事する傍ら、向学心に燃えて、先輩の指導のもと、農事研究や勉学に毎晩集まり、これを求心会と名付けて活動致しました。そして米作農業の副業に藁加工を奨励したのがきっかけとなつたのです。若者達は、南谷戸の象徴として大わらじの製作を思いつき、当時、道祖神の横に、下の道を覆うような枝ぶりの良い松があり、これに吊し奉納する事としたものです。

こうして、村中の悪魔を祓い、明るい村をと願い、以来、家内安全、五穀豊饒、戦時中は、武運長久、戦後は交通安全を祈願して、約3年毎に作り替えをしています。又、戦時中は大わらじの藁をお守り袋に入れて出征した人もいと聞かされています。

現在、作り替えは、会員50世帯の老若男女が総出で、近隣の方々の手助けを得て作ります。

この大わらじは、藁大束約30束を必要とし作業は、藁

すぐり、藁打ち、鼻緒作りから、大草鞋の仕上げへと、大勢の人の手が必要で仕度から丸2日間を要し、出来上った時の喜びは最高で手を取り合って喜び、ここに住む人達はそれを誇としているのです。

現在の大わらじは、重さ200kg、全長3.5m、幅1.5mでございます。

昔は松の太木に吊してありましたが昭和30年松喰い虫のために枯れてしまい、その後、当町吉原喜和氏宅の白檀の古木をいただき、それに变えました。而し年々危険となった為昭和58年山仁建設興業㈱の厚意により、現在の懸座が完成したのです。

様々な変遷を経て、受け継ぐ者も、求心会に始まり、更生会、戦後は農事研究会と名称を改め、昭和30年代に入ると男社会であった農家も、農家の生活改善、主婦労働の見直しが叫ばれ、おしどり会とする。その後親睦会そして現在は、和やかに、生きる路を楽しむとして和楽路会となりました。最後になりましたが、道祖神は、縁結びの神とも云われ、昔は、良縁、愛縁の願をした信仰者があつたとも伝えられています。

1月14日のさいと焼き、(どんど焼き)は道祖神の祭りであり、庶民の最も身近な神様です。

ご参詣の皆様方の益々のご健康と家内安全のご加護を共に祈り申し上げます。

和楽路会々長



——昔の農家の年中行事——

正 月1～3日 神仏に雑煮を供え新年を祝う。

(3日間の朝食は男子が仕度する)

4日 檀家寺の住職が年始に来るので、来る前に門の
飾りを取る。

6日 (6日とろろ) 玄関にとろろを撒いて悪魔の
入らない様にする。

7日 (七草粥) 春の七草を粥に入れて喰べる。

(毎月)8日 (お薬師様) 各家2戸が順にお茶当番
となり、婦人連の信仰と社交場。(現在も続けられている)

11日 (蔵開き) お供餅をおしる粉にして神仏に
供える。

13日 (だんご飾り) 赤、白、黄、緑等のだんご
をマユや、農作物の形にまるめ木の枝に数百個つけて、
各家の土間に飾り豊作を祈る。

14日 (さいと焼き)(どんど焼き)

正月飾りやお札を燃やし、だんごを焼いて喰べ
ると風邪をひかないと云われ村中が集った。又、書
初めを燃やし高く上る程上手になると云われ子供
にも人気があった。

15日 (あずき粥) あずきの入ったお粥を神仏に
供える。片粥はいけないと云われ、七草粥を行
った家のみ行う。

(毎月)15日 (お念仏) 毎月順に1軒ずつ、講
中で集まり、その家の先祖の霊を慰める。(現在も
続けられている)

20日 (えびす講) 頭付きの魚を神仏に供えて
祝う。

2月3日 (節分) 豆まき、目ざしの頭をシイラ
ギの枝に刺して門口に飾り悪魔除けとする。

上旬 初午 (稻荷講) 各家にお稻荷様を奉
つてあるのでご馳走を作り豊作を祈る。

3月3日 (桃の節句)

21日 (彼岸)

この頃になるとよもぎの草も芽を出し各家
でよもぎだんごが作られる。

こうして、5月5日端午の節句、菖蒲湯、お
かしわで祝い、男子が出生すると勇しい畳2帖
程の大風呂を揚げた。

倉田節の田植唄に乗って、苗取り、田植え、
除草と忙しい日々が続く。秋の収穫まで、休
みは、(お盆の休養)(お日待ち)

(祭り)(彼岸)と又、1年が過ぎ暮の
ススはらい、餅つき、正月飾りになるの
です。この様に農閑期に行事をすまして、
後は一生懸命働くと云う合理性を、主にした
のです。